

P321a **ヘルクレス座  $\tau$  流星群の出現 (2) – 出現数の時間推移と出現規模の解析 –**

佐藤幹哉, 渡部潤一, 土屋智恵 (国立天文台), 蓮尾隆一, 長谷川均 (国立天文台太陽系小天体ゼミ), NHK  
コズミックフロント取材班

ヘルクレス座  $\tau$  (タウ) 流星群は、73P/Schwassmann-Wachmann 彗星を母天体とする流星群である。発表者を含む複数の予報研究により、2022年には、1995年に母天体から放出されたダストによって形成するダスト・トレイルが地球と衝突し、流星群の活発な出現が期待される状況であった。発表者の推測では、ZHR (Zenithal Hourly Rate: 天頂修正1時間流星数) で、30~数百の規模が想定された。そこで、我々は予報極大時間帯である2022年5月31日5時頃(世界時、以下同じ)において観測条件の良い、アメリカ・カリフォルニア州に遠征し、観測を実施することにした。

極大当夜は、薄明中から群流星が出現し、活発な出現が期待された。順調に流星数は増加し、眼視による観測では4:30~5:30に54個の群流星を数え(HR: Hourly Rate = 54)、想定通りの活発な出現を記録した。また天頂方向に向けたビデオ観測(約 $72^\circ \times 104^\circ$ )では、さらに多くの流星を記録しており、瞬間的には4:40頃にHRで80以上の出現規模を記録した。全体的な傾向としてはピークは鋭くなく、比較的長く継続する極大が現れたと考えられる。本発表では、詳細な解析結果を紹介する。